

教育委員会だより

7月10日に教育委員会が開催され、中村延雄前東多公民館長の退任にともない、8月1日付けで、新しい館長に小柳公さん(羽佐間)を任命する議案が承認されました。また、市内小中学校適正規模適正配置についても研究協議がされました。次回の定例教育委員会は、

8月6日(水)13時30分から、第3委員会室(市役所2階)で開催します。傍聴は自由です。

■問い合わせ 教育委員会 教育統括室
☎75-3450

8月は

『夏の青少年健全育成強調月間』です

家庭や地域社会で一体となり、市民が力を合わせて、青少年の豊かな人間性を育む取り組みを推進しましょう。



横尾市長、金丸社長、両隣の2人。後列は保護者、関係者のみなさん(市役所で)

と、期待を膨らませていました。7月14日の招待状贈呈式では、緊張した面持ちの2人でしたが、英語の勉強以外でやってみたいことを尋ねられると、高塚君は「オーストラリアの自然に触れてみたい」、陣内さんは「コアラに会うのが楽しみ」

高塚君と陣内さんオーストラリア研修へ

ボブ・ホーク・スカラシップ財団が実施する中学生のオーストラリア研修に、今年も市内の2人が参加することになりました。同財団はホーク元豪首相が熊本県山鹿市での講演を機に、毎年山鹿市の中学生2人を研修に招いていますが、その協力企業である株式会社オニザキコーポレーションの進出が縁で、昨年から多久市の中学生も参加できるようになりました。今年選ばれたのは、中央中学校3年生の高塚滉平君と西溪中学校2年生の陣内麻那美さん。7月27日から約1か月、一般家庭にホームステイをしながら、英語学校で他の国からの研修生と机を並べます。

母校・西溪中で素晴らしい技能と経験談を披露

『曲げ板金』金メダリストの秀島巧さん

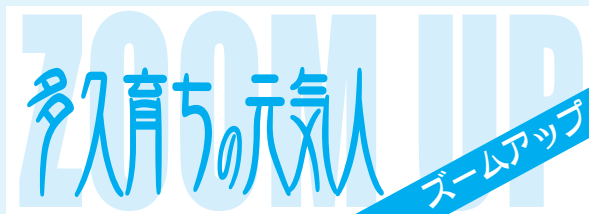
第39回技能五輪国際大会『曲げ板金』競技で、金メダルを獲得された秀島巧さんが7月12日、母校の西溪中学校で技能に関する実演授業を行いました。秀島さんは、就職したマツダ株式会社の研修期間中に『曲げ板金』の面白さにひかれ、その部門へ配属。特訓の結果、技能五輪に選拔され、入社3年目には、曲げ板金の技能を競う国内大会で頂点に立ち、日本代表として出場した夢のステージ国際大会で、金メダリストに輝いた若き技能者です。

曲げ板金の技能は、鋼板を切る、たたく、曲げるなどして、様々な面を加工する技能。航空機、自動車、家電製品など金属で物を形づくるための板金技法は私たちの生活になくてはならない技能のひとつで、大会では、精度の高い立体構造製品の製作を競います。

授業では、後輩が真剣に見つめる中、ハンマーを使って1枚の鉄板を円筒にしたり、丸い鉄板から深みのある皿の製作を実演。また、中学時代の思い出や勉強のコツなど後輩からの質問に答えたり、「毎日毎日が課題の連続でも、ひとつの課題を克服すると次の課題に挑戦できる」と、これまでの経験から将来に向かってのアドバイスや、「自分で目標をもって努力し、夢や目標に向かって頑張れるようになってもらいたい」とエールを送りました。



◀後輩の前に実演をする秀島さん



「世界一になれて、多くの人やコーチに恩返しができる。そして、大会で色々な職種の出場者と交流が持て、仲間と知り合えたことも大きな財産。今回は、母校でこのような機会が持てて嬉しかった。今は新入社員のコーチをやっていて、金メダリストを育てたい。将来、新車の開発にもかかわってみたい」と語るさわやかで、笑顔の素敵な秀島さん。



秀島 巧さん(ひでしま・こう)

1985年多久市多久町生まれ。佐賀工業高校卒業後、マツダ株式会社(本社工場:広島県)に就職。入社後、技術を見出され、腕を磨き、2005年の第43回技能五輪全国大会『曲げ板金』職種で銀賞。翌年の同大会で金賞に輝き、第39回ユニバーサル技能五輪国際大会の曲げ板金競技で金メダルを獲得した。県内出身者では初めての快挙。3大会連続で同競技のメダルを獲得しているハイレベルの同社でも、金メダルは34年ぶり。秀島さんは当日に受け取った課題に対し、冷静に判断して正確無比に作品を完成させ、世界一をつかむ快挙を成し遂げた。

■ ようこそ技能五輪メダリスト(<http://www.ginou.jp>) のホームページでも当日の映像を見ることができます。